

### 3. 共同研究実施報告

#### (1) 研究体制の構築

##### ① 共同研究体制の構築状況

本事業「ナノメディシン拠点形成の基盤技術開発」における共同研究は、固形癌の診断・治療を主要なテーマとしており、2つの大テーマから構成されている。(内容は、「Ⅱ. 事業報告 1. 事業概要 (3) 事業内容」参照)

研究体制の構築状況は、「図9 研究体制図」のとおりである。

コア研究室において、研究統括の下に研究リーダー会議を設置し、この会議の下に各研究グループが構成された。また、共同研究を促進するため、研究統括が共同研究推進委員会を主宰した。(各役割は、「Ⅱ. 事業報告 1. 事業概要 (2) 事業推進体制」参照)

コア研究室はこれらの機関により構成され、共同研究については、更に京都大学をはじめとする大学等の研究機関や参画企業における各研究室と一体となって推進した。

共同研究の推進に当たっては、研究統括が中心となり、事業総括、新技術エージェント等と協議しつつ全体的な舵取りを行った。また、研究リーダー会議において、研究開発の状況把握、今後の方向付け、研究グループ相互間の連携や調整を行った。また、特許化や事業化等については、新技術エージェントが中心となり、個々の具体的な事例が生じるごとに、研究リーダーや参画企業等と綿密な調整を行った。

研究テーマは、当初は2大テーマ、4中テーマ、15小テーマであったが、「(2) 研究テーマの推移」で後述するとおり、中間評価における指摘を踏まえ、フェーズⅡにおいて大幅な変更を行い、2大テーマ、2中テーマ、9小テーマに再編を行った。

大テーマごとに研究グループを構成し、グループ内の進捗状況の確認と調整を行った。また、中テーマ内、小テーマ内においても、常時、研究者と参画企業等が相互調整や検討会議を行いつつ、研究目標の達成を図った。

##### ② 全体的な進捗状況

本事業の研究成果として、受賞8件、論文誌掲載件数145件(国内54件、国際91件)、口頭発表・ポスター発表件数374件(国内271件、国際103件)に表されるように、非常に活発な、また、内容の充実した研究が実施された。

実用化、事業化に向けても、商品化2件を達成するほか、特許出願件数20件(うち外国出願3件)、他事業への展開12件を数えるに至っている。

元来、本事業が目指す医療分野では、医薬品のシーズが上市に至るまでに10年から15年間という長期の期間と、その間の巨額の研究開発資金が必要とされる分野である。本事業の事業期間である5年間という期間は、革新的な医療機器及び医薬品のリード創出の期間というべきであり、その意味で、フェーズⅢにつながる研究成果が創出され、新たな公的研究開発プログラムで更なる展開が図れる状況となっていることは、極めて大きな価値があることと考える。

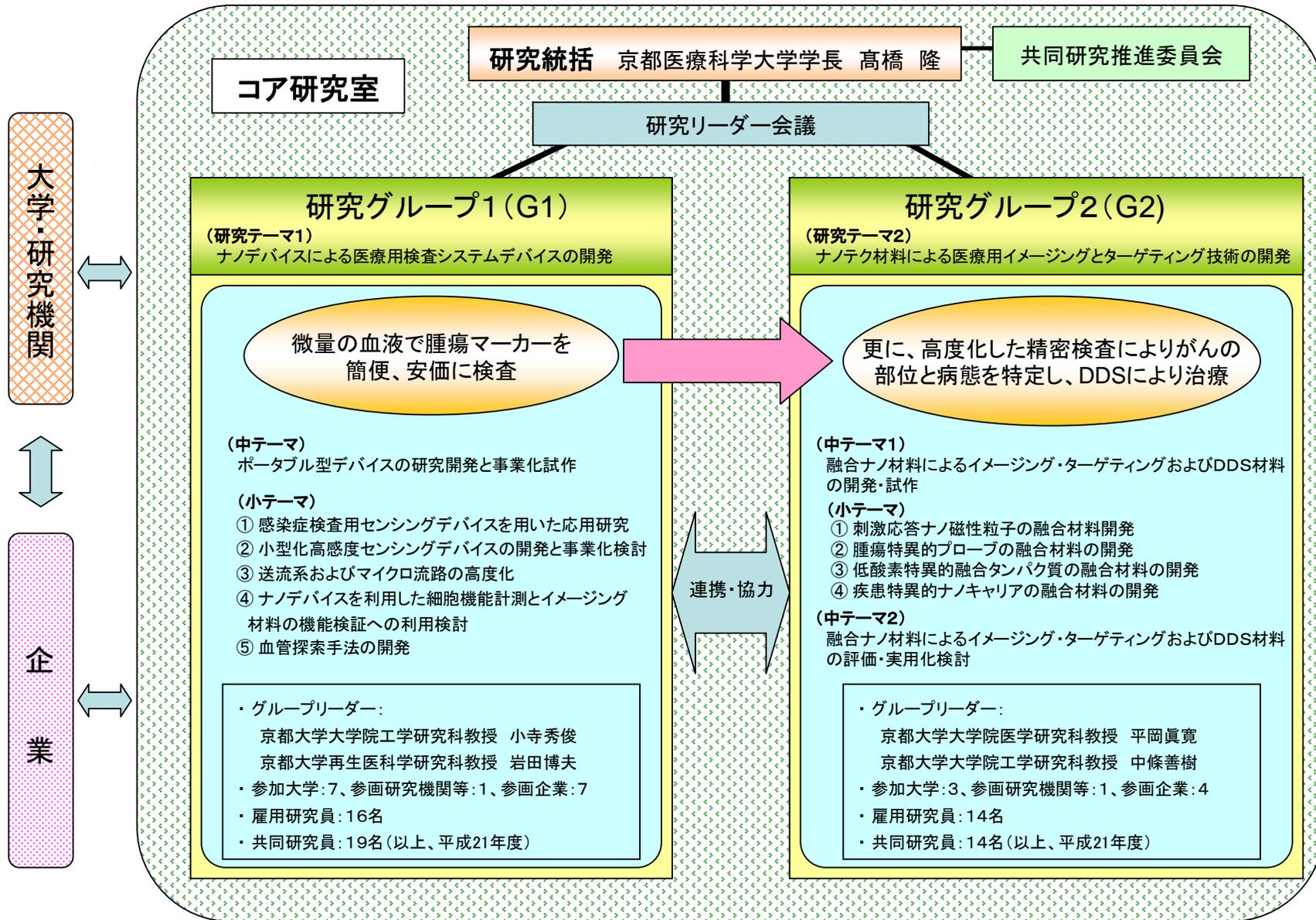


図9 研究体制図